

令和元年8月21日

## 6年生とキーボードの打ち方を練習しました。

厚沢部町立館小学校

佐々木 朗

よく考えてみると6年生と私で勉強するのが初めてでした。今日は、五年生の宿泊研修の裏番組で、子どもたちにパソコンを教えることになりました。

実は、私は、18歳の時コンピュータに出会い、それから四十年以上、パソコン操作や情報教育に関わる研究をしております、それなりに詳しいです。

今日は、子どもたちに、コンピュータ操作の基本であるキーボードの打ち方を指導しました。

私が初めてコンピュータのキーボードと付き合った時、「こんなややこしいもの、そのうちになくなるんじゃないかな。」と思っていました。ところが、今では、しゃべればそれが文字になる時代ですが、キーボードは残っています。今後もキーボードは消えないと思います。

もう30年くらい前になるので、時効という話ですが、当時私の勤めていた中学校(恵山)で、初めてコンピュータが入ることになったのです。私は技術を担当し、他の領域は吹っ飛ばして、中三の生徒を一年間、パソコンを集中して取り組ませました。

そうしたら、まじめな子から、髪がヤンキーっぽい子(失礼)から、みんなが、見事にブラインドタッチ(キーボードを見ないで打つこと)ができるようになったのです。後日談として、高校に進学した生徒から、「先生が私のものすごく速く打つのを、た

ただびっくりしていたんです。」と嬉しそうに話してくれました。

正確なキーボードの入力は、心理学で、近く運動学習と言って、ピアノや、自転車の通り、「体が覚える」学習で、一度身につけたらその技能は一生忘れることはありません。

私は、研究発表があると、キーボードは、ローマ字を学習する三年生頃から始めて、入力はローマ字を推奨しています。一・二年生にカナで入力させることは賛成できません。マウスは一年生からスタートしてかまいません。

私は、この6年生をブラインドタッチを身につけて卒業させたいのです。この時期でないとだめなのです。大人になって自己流の打ち方が身につけていると、私は、「正確に打った方が速く打てますよ。」と言ってもなかなか耳を貸してくれないもどかしさに何回も出合っています。

今日、子どもたちは、ホームポジションの所に指を置き、練習ソフトを使って、練習に励みました。たった、一時間でしたが、アルファベットはだいたい打てるようになりました。さすが若者です。

また、時間があれば(今年から休み時間も教師が付けば使えることにしました)、子どもたちの技能習得を鍛えていきたいと思えます。私と出会ったことで一生の財産が一つ増えれば、教師としての歳代の喜びです。